

## ニュースがわからん!

「失笑」の本来の意味、知らなかつた



### 意味が揺れている言葉の例



### 別の解釈をする人が多い。言葉は生きものなんだ

「失笑する」って「こらえきれず噴き出す」という意味だった。A「文化庁の国語世論調査では本来の意味で使う人は3割だけ。」A「失笑を買う」って「失笑する」のが、その倍もいたんだ。A「失笑を買う」って「失笑する」の「失」は「うつかり」の意でも「笑いが(取)れない」との解釈で「あきれ」と考える人が増えた。20~30代だと本来と違う意味で使う人が8割を超す。A「8割!」それでも試験で「あきれる」の意と書いたら間違いになるの? A「文化庁は1995年から毎年、調査していく同様の事例はほかにもある。どこからが誤用かという線引きは難しい。検定試験などでは辞書への掲載が一つの目安になるらしいよ。」A「辞書に載せる・載せないはどう決めるの?」A「小説や雑誌、新聞などで用例を集め、新しい使い方が多く見られたら、編集会議で載せるかどうかを決める。利用者からの問い合わせが掲載のきっかけになることもあるよ。」

A「何か基準はあるの?」A「不言実行」をもじつてできた「有言実行」の場合は、三省堂の「大辞林」に載ったのは95年の第2版だけ、岩波書店の「広辞苑」は2008年の第6版で、13年も違う。出版社によってこれだけ差がある。

A「朝日新聞では意味が揺れている言葉を使うときは、どうしているの?」A「例えは「雨模様」。本来は降り出す前の様子だけ、降った時に使う人もいる。誤解が生じないようになるべく他の表現に書き換えるようにしている。」A「難しいわね。」A「意味が揺らぐのは言葉が生きている証し。メルやツイッターで、話すように文章を書く機会が増えたし、なおさら敏感でいたいね。」(野村ひとみ)